

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文 学 部	身 分	教 授
氏名	林 明子		
NAME	HAYASHI, Akiko		

1. 研究課題

（和文）映画タイトルの分析と語用論：翻訳によって失われるもの、加えられるもの

（英文）Analysis of movie title translations from a pragmatic perspective.

2. 研究期間

1.5 年間（ 2019 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

本研究では、映画のタイトルの原題と翻訳を、翻訳によって失われるもの、加えられるものという視点から、ドイツ語と日本語を対照に分析・考察した。

まず、インタビューとアンケートを実施した。(1) 協力者にドイツ映画を実際に視聴してもらい、その後、タイトルを中心にオリジナルと和訳に関する質問紙調査を実施した。(2) 質問紙で言及したテーマを中心にディスカッションを行った。(3) 関連したテーマについて、個別に聞き取り調査を行った。協力者は、①ドイツ語母語話者(日本語超上級)、②日本語母語話者(ドイツ語超上級)、③日本語母語話者(日本語字幕付きを視聴)の3グループであった。視聴および関連テーマの聞き取り調査ともに、分断された2つのドイツと統一後のドイツにまたがるストーリー展開の作品を用いた。その結果、言語産出者の側からは、翻訳の枠組みを超えて解釈に深く関わる訳者の選択が見られること、受容者の側からは、日独のグループで、さらには同じ言語の母語話者間でも、世代、時代や社会構造に対する背景知識などが、タイトルの捉え方に大きく関わる様相が観察された。

社会的背景や歴史・文化に深く関わる題材を扱った映画のタイトルについては、①20世紀後半の旧東ドイツのアニメーション映画、②ナチ時代を扱った21世紀の映画も取り上げた。補足的に、翻訳が日本語からドイツ語のもので、かつ文化や民俗に関わる題材として③ジブリのアニメーション映画についても扱った。

（英文）

In this study, German titles and Japanese translations of the same movie were compared. Along with vocabulary, syntactic, and text-linguistic analyses, interviews were conducted with native speakers of German and Japanese. As a result, differences between the original and translated titles and their relationship with the underlying society and culture were clarified pragmatically.